

ソフトボール最終結果&打ち上げ

さてさてついやってきましたソフトボール大会～肉体年齢を超えて運動する日～最終戦！決戦は6月3日(水)。新進気鋭の強敵連合との対戦です。連合はいままで全勝。1勝1敗の我らが畜資にとっては負けられない戦いです。試合は追いつけ追い越せの乱打戦。打撃力はほぼ互角でしたが、池田先生や堀口さんを中心にチームワークの良い連合に対し、酒井さんの三振に対する野次などまとまりに欠ける畜資は惜しくも敗れてしまいました…悔しいです!!

そして失意の中、6月5日(金)にソフトボール大会の打ち上げが行われました。はくび会副会長である木村さんのナイスな進行のもと、優勝者連合に優勝賞品であるプレミアムなビール1箱が進呈、また今年のMVP賞として初戦で早くも負傷をしてしまわれた栄養の松井先生においしそうなワインが進呈されました。そして目の前のビール(発泡酒)と料理がオアズケの状態



高まるテンションの中、南先生のご挨拶の後、廣岡先生の乾杯の音頭を皮切りにソフトボール大会の打ち上げが始まりました。今年の料理はシェフ洋子さんを中心として畜資全員体制で取組み、ビーフン、生春巻、おにぎり、畑のサラダ、王将餃子とバラエティに富んだメニューは大盛況でした。

ご馳走様でした！



美味しい料理も売り切れ、宴も酣になってきた頃になると研究室の垣根を越えて人が入り混じり築山さんハーレムができたり、育種の人がぼつぼつ消えたり、洋子さんの声が高くなっていったりと皆さん楽しそうでしたね。皆さんお疲れ様でした。来年も楽しみましょう。



(JC)



目次:

～広岡先生の随筆～ ◎京大における教育法について	2
Professor Misztal来学	3
落語の夕べ	3
第6回統計遺伝育種研究会	3
畜産システム研究会 第23回大会を開催しました	4
記事のタイトル	4
お知らせ	5

畑deバーベキュー



6月20日(土)天気:晴天という好条件下で畑の集大成「畑 de バーベキュー」が行われました。畜産資源は、実験や研究、やんごとなき事情等で準備に参加できませんでしたが、「食べ物を美味しく頂く」というバーベキューには重要な役割に徹していました。準備して下さった生殖生物の築山さん、その他はくび会の皆様ありがとうございました。当日、色々して出て

遅れた僕は、何故かキュウリが入った容器を渡されキュウリばかりを食べていました。他の方は美味しいお肉と新鮮な野菜、お酒を堪能されたと思います。ソフトボールの打ち上げ同様大活躍(?)の某4回生やバーベキューを120%楽しんでらっしゃる畜資の姐さん、南先生と熊谷先生に女性との付き合い方を指南してもらった某学生達、何故か端っこに集まって座談する栄養研究室…会場では、分野に関係なく皆さん和気藹々とお話されていてもっとこういう機会を設けたいなと副会長として感じました。

追伸:はくび会の皆様は、畑の野菜取り放題なのでタイムセールに食品を袋に詰めているおばちゃんの如くガンガン収穫してくださいね。

文責:kim

じとじとした季節になりましたね。京都の梅雨入りは、6月9日でした。暑い日には、ちょっと雨が降ってくると涼しくなってます。しやすいのですが、終日の雨や湿度の高さはやっぱり不快ですね。食べ物も腐りやすいので、お弁当チームは工夫が必要ですね。部屋にカビが発生するのも気になるところです。

でも、今年は黄色いレインコートを買ったので、雨の日でもちょっと安心です。最近はおしゃれな長靴も見かけます。梅雨は7月中旬まで続くようですが、気分は晴れやかに～と行きたいですね。室内での遊びが増えそうな予感がしています…(^)

好評連載 広岡先生の随筆 ④京大における教育法について



多くの学生から尊敬されている他大学の名誉教授の先生について、その研究室の出身の友人にその先生を尊敬している理由を聞いたところ、「みんなが尊敬するのは、直面している問題に親身になっていっしょに考えてくれるからだ」という答えが返ってきた。ちょうどその場にいた京大出身の先生と私は思わず顔を見合わせ、「それは違うよな」と言ってしまった。もし京大にそのような教授の先生がいて、同じことをしても、たぶん、京大生からそこまでの尊敬は得られないであろう。実際、われわれ二人も、それでは尊敬しないだろうと思った。



いわゆる理想の大学の先生像とは、いつも学生を励まし、いっしょになって問題を解決してくれる先生のようなものである。また、他の大学では、先生がテーマを考え、学生が先生の指示の下で実験や分析を行い、下書きは学生が書くが、ほとんどの部分を書き直され、最後は、指導したその先生が第1著者として論文が世に出るケースが多いようである（形式上は学生が第1著者になるケースもある）。しかし、もし京大生を相手にそのようなことをすれば、感謝されるよりむしろ口を出さずに自分でやらせてくれと不平不満が出るであろう。

よく、「京大の教員は、猛獣使いでなければいけない」と言われる。この言い回しが意味することは、京大生はみんな猛獣で、注意深く接しないとこちらが大げがをすることになるが、逆に上手に接すればわれわれが予想するよりはるかにすばらしい研究・仕事をするということである。この言い回しは、私の経験上でもよ局的（まと）を得た言い方だと思う。

京大生は、なぜか先生をバカにするところから始まる。あるいはバカにしないまでも、無条件に先生を尊敬するところから始まるわけではない。おそらく、自分はよくできる、あるいは成功者であると考えているのであろう、最初から先生を尊敬し、言われたことをそのまま素直に聞く学生は少ない。したがって、個々の学生の能力をしっかり見極め、プライドを傷つけないように配慮しながら正しい方向に導いてやるのがコツである。あるいはいろいろと助言するにしても、十分な人間関係とある程度の尊敬を勝ち取ってからすべきである。このような学生を相手にするのであるから、京大の教育に関する共通のコンセンサスは「自学自習」ということになる。

京大生を教育する際に、最も気をつけなければならない点は、高いプライドの裏返しで、打たれ弱いという点である。たとえば自分の書いた論文が、レフェリーからコテンパンにけなされたり、掲載不可と判断された場合、人格も含めすべてを否定されたと勘違いし、落ち込んで、場合によっては研究を中断してしまう学生も数多くいる。このような場合にこそ、教員は真剣にその学生のリハビリに取り組まなければならない。

私もやっこのような学生に慣れてきたが、着任当初は本当に苦労した。実は私自身もその範疇に属していたのであろう（自分ではそうでないと信じているが）が、教員として学生と接するときにはそのことをつい忘れてしまい、手を出しすぎたり、かまいすぎたりして、無用な反感を買ったり失敗することも多かった。基本的に「好きにやりなはれ」といって自主性に任せ、本当に誤った方向に向かったり、無駄な時間を取りそうなどきのみ声をかけてやる程度がベストのようである。このような学生であるが故に、オリジナリティーのある研究ができるのであろう。

広岡博之

Professor Misztal 来学

6月10日(水)世界的に有名な動物育種学者アメリカジョージア大学教授のMisztal先生が京都大学を訪問され、近年の遺伝育種学の推移とゲノミックセレクションについての特別講義を行ってくださいました。専門分野外の学生も講義に参加したことから、先生は急遽内容を一部変更し、分野外の我々にも大変わかりやすい内容の講義を行ってくださいました(途中までは・・・^^;)。研究以外のお話の中で、ジョージア大学では、農学部の学生の多くがあまり数学が得意ではないので、育種学の分野に進む人が少ないこと、肉牛や乳牛に興味のある学生は多いが豚や鶏に興味のある学生は少なく、研究や雇用のニーズと上手くバランスが取れていないことなどが紹介され、日本の状況とも共通しているように感じました。

講義のあと、畜資から広岡先生と博士課程の学生がMisztal先生ご夫妻との昼食会に参加させていただきました。そのときのお話で興味深かったのは、Misztal先生が「本当はゲノミックセレクションの話はしたくなかったんだ。」とおっしゃったことです。と言うのも、ゲノミックセレクションによって改良速度は飛躍的に改善されることになったけれど、そもそも改良の方向が間違っ

ているので、ものすごいスピードで間違った方向に進んでいる、つまり生産性は向上しているが、生存性や致死率に関する認識が低く、そのことを訴えてもなかなか興味を持ってもらえない、ということでした。

夕方からは、遺伝育種学研究室の学生さんに混じって、Misztal先生ご夫妻との夕食会にも参加させていただきました。今回ご夫妻は、タイへ御友人を訪問されたあと、遺伝育種学研究室の祝前先生に会うために、日本へ立ち寄られたとのことでした。夕食会では、日本のビールや日本酒と共に、お刺身や焼き魚、焼き鳥などの日本食も楽しんでいらっしゃった様子です。ご夫妻とも、お箸をととも上手に使っていらして、会話も食べ物やお酒の話から、英会話について(ご夫妻はもともとポーランド人なので、英語は第2外国語とのことでした)、ジョージア大学における研究職の話などなど多岐にわたってとても楽しいものでした。ジョージアに行ったら本場コココーラの工場見学に連れて行ってくださるそうですよ(^^)。

(ようこ)



第6回 統計遺伝育種研究会

梅雨入りした6月中旬、盛岡で行われた統計遺伝育種研究会に参加してきました。今年で3回目の参加となり、方向音痴の僕でも盛岡駅周辺の地理はだいたい覚えました。今回は例年に比べ、参加人数も多く、発表内容も多岐に渡っており、普段自分が論文を読む分野とは異なった話がほとんどで、いい刺激、勉強になりました。また、参加者の所属も様々で、どのように普段研究(仕事)をしているのかということを知ることが出来き、博士課程も2年目に突入した僕にとっては将来の進路を考える上でとても参考になりました。(記者N)



名物盛岡冷麺をお土産に買って来て、研究室のみんなで味わいました!!

～落語の夕べ～

盛大亭喜い公師匠による、『第一回はくび亭～落語の夕べ～』が6月12日の夕方開催されました。会場には、先生方を含む20名ほどの観客が、手に手にお酒やおつまみを持って集まりました。お囃子に



のって登場した喜い公師匠は、ビールケース&ごջで出来た手作り高座に座布団を敷いて、

江戸古典から「酢豆腐」、国内外の「小ばなし選」、上方古典から「夏の医者」を披露してくれました。



普段の彼とは全く違った一面が見られたこともありましたが、嘶も面白く、楽しかったですね。この一風変わった趣向、はくび会のイベントとしても続くといいですね～(^^)。第2回に期待しています♪

(ようこ)



はくび会の畑では、ナスや大根、インゲン、トマトが収穫時期を迎えています～

お誕生日会

6月、そして上半期最後の日、6月30日に、5、6月合同お誕生日会が開かれました！5月は柳君、6月はチチさん、そしてこの日がちょうどお誕生日だった児嶋さんです。それぞれのリクエストにお応えしてE-303で用意した、激甘こってり羊羹、ケーキ、チェリーパイを皆で戴きました。これで夏も乗り切れますね！



お勧め図書

今回御紹介するのは、個人的に気に入っている家畜図鑑です。

世界家畜品種事典

監修 正田陽一

(編纂委員：正田陽一・上野 睦男・田名部雄一・橋口勉・三上仁志・村松晋・吉本正)

税込価格：¥18,000

出版：東洋書林

ページ数：421pp

ISBN4-88721-697-1

発行年：2006

東大名誉教授の正田先生が監修されたブルジョアな雰囲気漂う一冊です。FAOの協力もあって牛、馬、羊、山羊、豚、鶏、アヒル、ガチョウ…全1070種の家畜の品種が写真入りで網羅されています。何の必要があってこんな形になったのか(改良されたのか)驚くような品種もあります。単に眺めていても面白いし、品種の基礎データ(産地、体格、生産成績など)として、また、論文を書く際に、品種名の正式表記の参考にもなります。

畜産システム研究会第23回大会を開催しました

6月27-28日に、北海道新ひだか町で、家畜改良センター新冠牧場との共催により畜産システム研究会第23回大会(事務局・畜産資源学分野)が開催されました。今回は大会委員長の北大・秦先生に大変お世話になり、「風土に根ざした畜産システムを考える」というタイトルのもとに、主に北海道の日高・えりも地区の肉牛生産に関するシンポジウムと現地研修を行いました。十勝とその周辺は東北地方からの入植者が多かった関係で開拓・開墾に日本短角種が導入された背景があります。特にえりも町では、夏山冬里方式により沿岸の昆布漁等の漁業との兼業が可能で、短角種生産は不漁時の収入源として重要性が高かったそうです。しかし近年は多くの畜産農家が廃業あるいは黒毛和種に転換し、えりも町では高橋ファームのみです。研究会では高橋ファームがどのような戦略で短角種に付加価値をつけ、その販路を開拓してきたのかを中心に、地域内資源循環の基準を設定しそれをクリアして生産された肉牛を「eーびーふ」として認定する



制度や、北大牧場におけるユニークな肉牛生産システムや和種馬生産の紹介があり、討論が行われました。また

今回の研究会は、シンポジウムにとどまらず、現地研修会を重視してその生産システムを体感・理解することに重点を置きました。北大牧場ではトレーラーやトラクターに乗って、日本短角種やヘレフォードの放牧や和種馬生産を見学し、高橋ファームでは高橋さんの運転するトラックの荷台で放牧地を動き回り、繁殖牛を見ることができまし



た。また北大牧場での懇親会と高橋ファームでの昼食会では、その場で生産された肉を味わいました。当地

での畜産とそれを取り巻く風土をひとことで表すとすればwild & simpleでしょうか。傾斜地や林地、土地が痩せて海からの強い風が始終吹き付ける寒冷な環境を悪条件として捉えるのではなく「これならできる」さらに「ここでしかない」という発想で取り組んでおられることに心を惹かれました。短角種は本来の大型種の特性を活かし、無駄な脂肪をつけないように育て、サイズや厚さに配慮してカットした赤身や内臓肉を軽く炙って塩胡椒のみの味付けでいただくのがよいようです。オーストラリアとアルゼンチンで過ごした14ヶ月間と2ヶ月間を思い出しました。

<事務局・熊谷>

お店紹介⑤
吉田さかみち

今回御紹介するのは、畜産資源のグルメ王子こと西尾君一押しの酒処です。農学部門から東へ歩いてすぐ、ちゃんぽん屋さんの隣に「さかみち」と書かれた木の看板が出ています。外からは、中の様子が見えないのですが、中に入るとカウンター越しに店主と調理場の様子が目に入ります。その奥に光るのは、日本酒の冷蔵庫。カウンター上の壁には、日本酒のキャップが埋められています。落ち着いた雰囲気が醸し出されています。



この店の売りは、品質本位の旬のお酒と旬の食材。店主曰く、食材だけでなく、お酒にも旬があるそうで、行く度に新しい銘柄のお酒が並んでいます。「カウンターで店主のこだわりトークが聞けるのがいいですね」とは西尾君談。厳選されたお酒と技の光る肴、ここなら本物が味わえますよ。



営業時間：17:00～24:00、住所：左京区浄土時西田町118、TEL&FAX075(771)0099 (カウンター席のみ)

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも大歓迎です。下記のアドレスまでどしどし送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今月のゼミは

7月 2日(木)木村(悠)・中川(靖)(研究者会議)	10:30~12:00
7月 7日(火)イクバル・児嶋(修士中間発表)	14:45~16:15
7月10日(木)荒木・石田(研究者会議)	10:30~12:00
7月14日(火)稲垣(文献紹介)・木村(知)(修士中間発表)	14:45~16:15

の予定です。教室はいずれもE-103です。急な変更等の連絡にご注意ください。
ゼミ係

イベント係りよりお知らせ

7月のお誕生日さんは大石先生、中川君。リクエストはお二人ともガトーショコラ!こってり!「クレームブリュレも好きだよ」(大石先生)、「生クリーム添えて」(中川君)。お楽しみに☆また、7月上旬に暑気払いを計画しています。今年は幻の見島牛が食べられるかも…という噂が広がっています。お誕生日会と暑気払いの日には、決定し次第お知らせします。

今月のおみや



今月のおみやは、海外から内蒙古の馬頭酒とひまわりの種、ネパールのロティとタロ(酒の肴)、中国栗チョコレートと百合花茶、国内から小岩井クッキー、愛知県産メロン、北海道白い恋人などなど、たくさん頂きました☆ありがとうございます!



2009年 7月

日	月	火	水	木	金	土
6/28	29	30	1 加藤・木村(悠) 体重測定④	2	3	4
5	6	7	8 スリタヤニ・石田 体重測定④	9	10	11
12	13	14	15 柳・稲垣・荒木 体重測定④	16	17	18
19	20	21	22 竹内・酒井 体重測定④	23	24	25
26	27	28	29	30	31	8/1

編集後記 最近、NHKラジオの実践ビジネス英会話を聞いています。週替わりで様々なビジネスシーンのスキットが出てきて、結構楽しめます。先週の話は、“Anger Management”。元政府のスポークスマンが、会社の広報担当として鳴り物入りで転職してきたものの、社内で自分の感情がコントロールできなかつたことが理由で辞表の提出を求められる、というストーリーです。英会話表現だけでなく、アメリカ人社会が垣間見えたこともあって、興味深く聞いていました。日本では、部下を怒鳴って会社を首になるなんてこと、まずないですもんね。